1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071201513		
法人名	株式会社 末広福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーガーデン		
所在地	福岡市西区拾六町1丁目21番11号 (電話) 092-883-2223		
自己評価作成日	令和 6 年 8 月 1 日	評価結果確定日	令和 6 年 11 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム フラワーガーデンでは「人格の尊重」・・・ひとりひとりの生き方を尊重し、その人らしくいつまでも住み慣れた場所で生活できるよう支援いたします。「笑顔」・・・一日一笑、笑顔あふれる環境を作ります。「感動」・・・共に喜び感動を共有します。この理念に基づきながら、寄り添ったケアを行い入居者様がより自由に明るく過ごせる環境の提供を行いたいとチャレンジしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 6 年 9 月 18 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

中庭を中心に、建物を囲むように、設計されており、四季折々の花を居室やリビングから眺めることができる。特に春は、薔薇が満開となり、利用者や近隣の住民の散歩コースとなっている。庭の手入れや畑の作物作りは、近隣のボランティアの方の協力がある。内装はホテルを思わせる高級感があり、ピアノや楽器が置かれている。機能訓練室のリハビリ器具は充実しており、図書コーナーを設置している。利用者の尊厳や思いを大事にして、花に囲まれた環境の中で、ゆったりとした時間を利用者が思い思いに過ごせるよう配慮した事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員手帳や事務所内に掲示している。又、部署会議、社内研修には、必ず社員手帳を持参して基本理念を唱和し意識を高めている。	地域密着型の視点を含めた、事業所独自の理念がある。社員手帳に、事業所の理念を記載している。会議や研修時、理念の唱和を行い、理念の内容を共有し、日々実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議内でイベントを開催し地域のボランティアさんや町内会長さんを招待し地域の一員として交流できる場を提供している。又、地域の清掃活動等にも積極的に参加している。	職員は地域の清掃活動に参加している。今年度から、カラオケ・歌声教室・習字のボランティアの方が来ている。高校生のフィールドスタディの受け入れをしている。地域住民が、事業所の庭の薔薇を見に来たり、畑の作物づくりや庭の手入れのボランティアに来たりしている。また、利用者と一緒に、芋ほりをする等、地域住民と交流する機会がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトとして活動9月上旬の認知症サポート研修を小学生向けに開催予定		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し参加の方に現状報告、活動内容など報告している。又、会議内では、介護保険制度の法改正の報告や地域イベント等の紹介を行っている。又、交流の懸け橋になれるようにイベントも同時に開催している。	2か月に1回、運営推進会議を開催しており、夏祭り等のイベントと日程を合わせて実施する等工夫している。会議では、利用者の状況や事故報告、研修について話している。介護保険法の改正の質問や事故報告について、詳しく知りたいと意見があり、詳細に事故報告を行う等対応している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回、運営推進会議の案内と書面にて近状報告書にて報告。開催後は議事録を郵送している。又、サービス上でのトラブル等はその都度電話にて相談している。	日頃から、行政とメールや電話で、報告、質問、相談をしている。キャラバンメイトとして、声かけ訓練や搜索訓練に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、「身体拘束0宣言」を推進中。定期的な勉強会、委員会を通して常に施設における身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている	玄関や居室は施錠していない。外出傾向がある利用者には、様子確認や付き添いを行い、気分転換できるよう支援している。全職員、年2回、身体拘束に関する研修に参加している。3か月に1回身体拘束・虐待の委員会を開催している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しており、委員会の中で研修、勉強会を定期的に行っている。又、他の職員へは議事録、資料にて観覧を義務付け虐待防止に取り組んでいる		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて「成年後見制度、権利擁護」についての勉強会を行っている。今年度は11月に予定している。また、現利用者にも制度を利用されている方もおられるので、実際に成年後見人から話を聞く機会もあり、個々の必要性について十分に理解する必要がある認識を持っている。	契約時や必要時に権利擁護制度について、家族に説明をしている。全職員は、内部研修で、権利擁護制度について学んでいる。研修資料や研修記録を整備している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新型コロナウイルス感染も5類となり、新規のご家族に契約内容を十分に説明することができるようになった。そのなかで、些細な疑問点等もしっかりと解消、ご理解ご納得を得たうえで、契約を締結し、入所に至るようになった。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時には本人の現在のご様子を報告している。また、対応が変わるような事が発生したら、随時、電話にてご家族へ説明し、ご理解ご納得をされたうえでケアを実施し、その後のご様子も連絡を入れるようにしている。また、管理者・看護師・介護支援専門員で構成する会議にて随時、カンファレンスを行っている。	ケア担当スタッフを中心に、利用者の要望や意見を聞きとりしている。外出や外食の希望があるときは、可能な範囲で対応しており、利用者が欲しい食べ物を職員と一緒に買い物に行く等している。家族には、面会時や電話で、要望を確認している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの中で、職員間の意見交換を実施している。また、日常的にケアの気づき等を、お互い話すことができる環境は整っており、その都度改善に向けて活発な意見交換を行い、よりよいケアの提供を心がけている	管理者は、会議や申し送り時に職員の意見を聞いている。年2回人事考課の面談がある。気になる職員や新人職員には、管理者のほうから声かけをしている。利用者の水分補給や勤務体制、業務内容についての意見があり、その内容を直ぐに取り入れるようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の職員とは定期的に「面談」を行って、今の働き方での継続でいいのかを協議したうえで、シフトを作り、各職員がその人にあった働き方で、働けるように環境改善には努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用プロセスの透明化と公正性 採用プロセスを透明かつ公正に行うために求人情報の公開や採用基準の明確化を行っています。候補者の選考においては人種・性別・宗教・年齢などの差別を排除し、能力や適性を評価して採用を行っています。採用過程や職場での対応において人権を尊重した対応を行っている	採用選考では、性別や年齢を理由に、採用対象から排除していない。定年は66歳だが、希望あれば、就労可能である。法人内の異動希望や研修の受講については柔軟に対応している。職員の希望休や勤務可能時間等も配慮するなど、働きやすい職場づくりをしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全職員を対象に人権の基本概念や差別の防止、多様性への理解などをテーマにしたスタッフミーティングを行い、職員の意識向上を図っている。	年1回、高齢者の人権を中心に、人権に関する内部研修に全職員参加している。人権に関する研修資料や研修記録を保管し、ふり返りができるようにしている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は教育委員会が年間プログラムを立て、定期的に勉強会を行っている。外部研修は勤務扱いとしており、職員育成に積極的に取り組んでいる。福祉関係の資格取得を目指す職員に対し講習費用を一部助する制度を設け勤務調整する等の応援体制をとっている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業者ネットワーク『いとのかい』『地域高齢者を支える会』の活動に積極的に取り組んでいる。又、キャラバンメイトにて活動し9月に地域向けに認知症サポート養成講座開催予定		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様へ毎日都度行っている声掛けの質の意識やご家族様との会話を積極的に持つなどを継続して行うことで信頼できる関係を築いていきたいと努力している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアサービスに関して家族との面談を定期的に行っています。家族の抱える課題や不安、そして期待するサービス内容について詳しくヒアリングします。その後、定期的なフォローアップを行い、家族とのコミュニケーションを継続しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時や更新時にはサービス担当者会議を開催し家族の要望が主になるが（本人は、認知症で判断能力が衰えている為）関係担当者を含めて話し合い、本人様が穏やかに過ごされ、尚且つ、家族も安心して介護負担が軽減するように努めている		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いと本人らしく、サービスを押し付けない、自宅で過ごしているような気持ちで支援開始行うも何時でも見直しできる体制にある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランでは家族の担当（役割分担）の内容を入れるよう検討し、差し入れや買物代行、面会や外出支援等、ご本人が家族と関わる事が出来るようスタッフは連絡や声かけをしている。帰りにご家族が手を振ってくれるだけでも、ご本人にとっては絆を感じる関わりとなっている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅への清掃やお墓参りなど家族支援のもと定期的に外出や他科受診も継続できるように努力している	職員は、利用者の馴染みの人や場所について、利用者や家族から情報を得ている。事前に連絡があり、友人や知人が面会に来られている。手紙を職員が代読して、返事として電話をする際に支援をする等、知人とのつながりが継続できるようにしている。家族の協力を得て、利用者のなじみの場所に、ドライブや外食に行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考えソファ席・食事席に案内している。だれもが隣同士で気軽に話す様子がある。車椅子をおす、ティッシュをとってあげるなど入居者同士の関わりがある。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居直後は移動先の相談員等に困ったことが無いか連絡を取っている。傾向や対応の工夫などを伝える。退居後も移動先（同施設内）に会いに行き声を掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の日常の過ごし方を選択してもらう。事を心がけている。何かをしたいという自発的な主張は少ない為、言動や行動等で把握に努めている。	職員の対応に対して示す利用者のしぐさや表情から、利用者の思いを理解するよう努めている。また、家族来訪時に利用者に関する情報を聴き取るようにしている。亡父の命日が近くなると不安になる利用者や、飲酒できないことから落ち着かない利用者への支援には家族からの情報により適切に対応することができた。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式とらしさシートを活用し、ご本人・ご家族から生活背景を聞き取りすることでケアのヒントにしている。入居時はケアマネジャーと密に連絡をとり、居室の配置含む暮らしのようすについて十分に聞き取りする。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルサイン確認と健康観察を行い、全入居者の1日の過ごし方を把握出来ている。できないだろうの先入観は捨て、家事活動・身支度や生活動作など、「できること探し」の視点で関わる様にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月を基本としてプランを見直し、それぞれの現状に沿った計画書となるようにとめている。看護・リハビリなどから助言をもらったり、新たな試みは家族に特に相談をする。	介護計画は3ヶ月毎に見直ししているが、看取りケースなど、利用者の細かな変化への対応が求められる場合は、見直し期間を短くしている。ケアマネジャーは日々のモニタリングから課題シートを作成し、担当者会議に備えて家族や関係者から回答を得ている。その回答を基に介護計画の案を作り、担当者会議で検討している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況は毎日○×チェックで記録し、実践や結果、その様子や発言はケア記録に記入し共有している。職員の気づきなど事実でない事柄は連絡相談ノートで共有し活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科受診も含め、ご家族支援のもと、柔軟に対応を実施している。必要時は福祉車両の手配を行い、支援に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GHでのイベント等には地域のボランティア町内会長、いきいきセンター職員等を招き介護スタッフ以外にも関わり繋がりを持っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望が 本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診支援を職員付添いのもと行なっている。また協力医の往診や、訪問看護を活用しながら、一人ひとりの意向や状態に応じた適切な医療が受けられるよう支援している。	通院の際、病院で待ち合わせたり、事業所が手配した介護車両で送迎したり等の支援を行っている。家族のみでの受診の際には、利用者の情報が病院に正しく伝わるよう、また受診先の情報が施設に正しく伝わるように、「往診ノート」を活用すると同時に、受診から戻った際に家族から聴き取りして情報共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	端末での送りや伝達ノート、口頭、個人の医療ノート等で情報共有、異常の早期発見に努め必要な時は、他部署の看護師に協力を求めている		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、職員がお見舞いに行き病院の看護師から状態の報告を受けたりしており病院受診の際に良い関係が作れるように取り組んでいるしかしコロナ過になってからはなかなか難しい状況である。病院側も個人情報の取り扱いや感染対策にて面会も難しく家族ですら面会が出来ない状態。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重要事項説明書」に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を明記し、本人や家族、主治医と相談・情報交換を行なっている。また訪問看護や往診医療等と連携を図りながら、支援出来る体制を整えている。	看取りについては、契約時に家族へ説明して同意を得ている。看取り指針に基づき利用者の状態の変化に応じて、その後の生活方法について随時話し合いを重ね、その都度家族の同意を得ている。本人や家族の希望があれば、医療行為の程度に応じ、施設での看取りを受け入れているため、毎年の研修計画に「看取り介護」を組み入れており、全職員が受講し学んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会の開催・実践訓練の開催を行っている。地区の消防署による、普通救命講習など参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練と水害、夜間を想定した避難訓練を実施している。消防署立会いのもと、消化・非難・救出の指導も受けている。マニュアルも完備し、被災後まで想定した内容となっている。	事業所はハザードマップ上、洪水浸水想定区域に在るため、毎年2回の火災想定避難訓練の他に、水害想定避難訓練も行っている。職員は大雨などの際、施設の状況を把握するようにしている。災害時に外部からの支援者を受け入れるため、利用者の身体状況のリストを職員室に掲示している。BCPを作成し、机上訓練も行っている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個人の生活リズムを尊重し理解し対応している。また個人情報保護法を厳守して安心して過ごして頂けるように配慮している。タブレット、パソコンを使用して個々の情報確認を行っている。	介護現場でのプライバシーの確保の理解と対応について示したマニュアルを法人独自に整備している。管理者は職員へマニュアルを熟読し日頃から職員を指導している。本人や家族からの求めにより、同性介助に応じている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人に合わせた日常生活を過ごして頂けるように声掛け、働きかけを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の希望に少しでも添える様に、生活リズム、レクなどの計画を作成し、支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個人に合わせた服装や本人の希望や好みを尊重している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員また利用者様同士で楽しく会話しながら準備したり、美味しく楽しく食事をして頂ける様に務めている。食事形態、個々の好みに対しても柔軟に対応している。	食事は3食共、法人調理場で調理している。利用者の食事が楽しめるように、献立説明は丁寧に行っている。法人の給食会議で事業所の希望を伝え、献立に反映している。また、おやつや誕生会など事業所で行う調理の機会を大切にしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分チェックはタブレットよりいつでも確認でき把握に努めている。食事がバランスよく摂取できるように形態の工夫や提供時間の工夫など一人一人に合わせて支援している		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前後、口腔ケアを行い入居者様にあつた用具を使用している。口腔衛生管理指導にて医師に助言や指導連携を取り口腔機能低下防止に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄リズムを把握し、さりげない声かけでトイレへお連れ、失敗ない様に見守りや声掛けを行っている。本人様がスムーズに排泄できる方法などを職員で話し合っている。夜間も廊下天井の照明が点っており、安心してトイレに行くことができる。	利用者個々の排泄状況に応じ、できるだけトイレで排泄するよう支援している。ポータブルトイレを使用することで、本人の排泄習慣が介助を受けること無く続けられる利用者については、自室にポータブルトイレを設置している。トイレの照明はセンサー式のため、夜間も安全に利用することができる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェックシートにて水分量、食事量等を把握し日中は日々の運動に腸活運動等取り入れたり、排便コントロールの把握に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた入浴の支援をしている	入浴準備は毎日行っており、個人の体調や気分に合わせて、個別に入浴しやすい環境を提供している。個浴での対応が難しい場合事業所内の浴室も利用している。	お風呂は毎日用意している。1日おきに声かけしているが、希望に沿って毎日入浴している利用者もいる。在宅時から、使い慣れている入浴用品や用具等を続けて使用している。毎年創立記念日を挟んだ3日間にはバラ湯にしている。シャワーチェアでの入浴が困難な場合は、併設施設の機械浴を利用して入浴介助している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせて、離床や臥床を支援している。また、昼夜逆転や不眠を解消する為、日中は活動的に過ごして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情を管理し把握している。不明な点などは、かかりつけ薬局の薬剤師に相談確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や能力に合わせた、役割やお手伝いを提供し、達成感を感じて頂けるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた、ドライブレクやイベントを企画している。特に、家族会や夏祭りは、地域の方々との交流を入居者様ご家族様も楽しみにされている。	暑い間は外に出ることは控えており、中庭での外気浴等により、気分転換している。事業所周囲を散歩する際には、隣の保育園児たちが園庭に出ている時間に合わせて行き、交流の機会となっている。月1回は、外出行事を行っており、山笠見物や花見に出かけた。3ヶ月に1回、レクレーションを兼ね買い物に出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望や力に合わせて、近くのコンビニやスーパーに買い物をして頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が難しい時期など、手紙や電話など常に連絡が出来るように支援している。又、電話や手紙等が難しい入居者様へは、代筆や代弁にてお知らせしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、色彩を見やすい色合いにし、落ち着いて過ごせる様に務めている。居間からは、中庭が一望でき四季折々の変化を楽しむことが出来、開放感ある暮らしを提供している。	玄関は広く、空間にゆとりがある。ユニットの入り口は障子風の引き戸となっており、玄関から中の様子を見ることは出来ないよう配慮している。廊下は広く、天井も高いため、建物内は全体的に解放感がある。リビングのソファは四季折々の花が咲き誇る中庭に向けており、利用者は四季を感じながら過ごすことが出来る。音楽が好きな利用者が多いため、テレビは歌番組を選んで楽しめるよう、工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、入居者様がくつろげるようにソファやテレビ等を設置している。又、照明等も、落ち着いた色合いにしている。食事時は、音楽をかけ食事に集中できる環境づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人様やご家族様の希望や要望にて、ご家族の写真や思い出の品など飾り、家具等も思い思いに持ち込んで頂き、居心地の良い空間で過ごして頂けるように支援している。	居室のベッド、筆筒は事業所が用意している。利用者はぬいぐるみや家族写真、仏壇など思い思いのものを持ち込み、居心地の良い環境を整えている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人に合わせた居室内の配置、安全にも工夫している。出来る事、わかる事、したい事を活かして自立した生活が送れる様に細かな変更も行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員手帳や事務所内に掲示している。又、部署会議、社内研修には、必ず社員手帳を持参して基本理念を唱和し意識を高めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議内でイベントを開催し地域のボランティアさんや町内会長さんを招待し地域の一員として交流できる場を提供している。又、地域の清掃活動等にも積極的に参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトとして活動9月上旬の認知症サポート研修を小学生向けに開催予定		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度開催し参加の方に現状報告、活動内容など報告している。又、会議内では、介護保険制度の法改正の報告や地域イベント等の紹介を行っている。又、交流の懸け橋になれるようにイベントも同時に開催している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回、運営推進会議の案内と書面にて近状報告書にて報告。開催後は議事録を郵送している。又、サービス上でのトラブル等はその都度電話にて相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、「身体拘束0宣言」を推進中。定期的な勉強会、委員会を通して常に施設における身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しており、委員会の中で研修、勉強会を定期的に行っている。又、他の職員へは議事録、資料にて観覧を義務付け虐待防止に取り組んでいる		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて「成年後見制度、権利擁護」についての勉強会を行っている。今年度は11月に予定している。また、現利用者にも制度を利用されている方もおられるので、実際に成年後見人から話を聞く機会もあり、個々の必要性について十分に理解する必要がある認識を持っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新型コロナウイルス感染も5類となり、新規のご家族に契約内容を十分に説明することができるようになった。そのなかで、些細な疑問点等もしっかりと解消、ご理解ご納得を得たうえで、契約を締結し、入所に至るようになった。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時には本人の現在のご様子を報告している。また、対応が変わるような事が発生したら、随時、電話にてご家族へ説明し、ご理解ご納得をされたうえでケアを実施し、その後のご様子も連絡を入れるようにしている。また、管理者・看護師・介護支援専門員で構成する会議にて随時、カンファレンスを行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの中で、職員間の意見交換を実施している。また、日常的にケアの気づき等を、お互い話すことができる環境は整っており、その都度改善に向けて活発な意見交換を行い、よりよいケアの提供を心がけている		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の職員とは定期的に「面談」を行って、今の働き方での継続でいいのかを協議したうえで、シフトを作り、各職員がその人にあった働き方で、働けるように環境改善には努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用プロセスの透明化と公正性 採用プロセスを透明かつ公正に行うために求人情報の公開や採用基準の明確化を行っています。候補者の選考においては人種・性別・宗教・年齢などの差別を排除し、能力や適性を評価して採用を行っています。採用過程や職場での対応において人権を尊重した対応を行っている		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全職員を対象に人権の基本概念や差別の防止、多様性への理解などをテーマにしたスタッフミーティングを行い、職員の意識向上を図っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は教育委員会が年間プログラムを立て、定期的に勉強会を行っている。外部研修は勤務扱いとしており、職員育成に積極的に取り組んでいる。福祉関係の資格取得を目指す職員に対し講習費用を一部助する制度を設け勤務調整する等の応援体制をとっている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業者ネットワーク『いとのかい』『地域高齢者を支える会』の活動に積極的に取り組んでいる。又、キャラバンメイトにて活動し9月に地域向けに認知症サポート養成講座開催予定		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様へ毎日都度行っている声掛けの質の意識やご家族様との会話を積極的に持つなどを継続して行うことで信頼できる関係を築いていきたいと努力している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアサービスに関して家族との面談を定期的に行っています。家族の抱える課題や不安、そして期待するサービス内容について詳しくヒアリングします。その後定期的なフォローアップを行い、家族とのコミュニケーションを継続しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時や更新時にはサービス担当者会議を開催し家族の要望が主になるが（本人は、認知症で判断能力が衰えている為）関係担当者を含めて話し合い、本人様が穏やかに過ごされ、尚且つ、家族も安心して介護負担が軽減するように努めている		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いと本人らしく、サービスを押し付けない、自宅で過ごしているような気持ちで支援開始行うも何時でも見直しできる体制にある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランでは家族の担当（役割分担）の内容を入れるよう検討し、差し入れや買物代行、面会や外出支援等、ご本人が家族と関わる事が出来るようスタッフは連絡や声かけをしている。帰りにご家族が手を振ってくれるだけでも、ご本人にとっては絆を感じる関わりとなっている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅への清掃やお墓参りなど家族支援のもと定期的に外出や他科受診も継続できるように努力している		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考えソファ席・食事席に案内している。だれもが隣同士で気軽に話す様子がある。車椅子をおす、ティッシュをとってあげるなど入居者同士の関わりがある。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居直後は移動先の相談員等に困ったことが無いか連絡を取っている。傾向や対応の工夫などを伝える。退居後も移動先（同施設内）に会いに行き声を掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の日常の過ごし方を選択してもらう。事を心がけている。何かをしたいという自発的な主張は少ない為、言動や行動等で把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式とらしきシートを活用し、ご本人・ご家族から生活背景を聞き取りすることでケアのヒントにしている。入居時はケアマネジャと密に連絡を取り、居室の配置含む暮らしのようすについて十分に聞き取りする。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルサイン確認と健康観察を行い、全入居者の1日の過ごし方を把握出来ている。できないだろうの先入観は捨て、家事活動・身支度や生活動作など、「できること探し」の視点で関わる様になっている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月を基本としてプランを見直し、それぞれの現状に沿った計画書となるようにとめている。看護・リハビリなどから助言をもらったり、新たな試みは家族に特に相談をする。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況は毎日○×チェックで記録し、実践や結果、その様子や発言はケア記録に記入し共有している。職員の気づきなど事実でない事柄は連絡相談ノートで共有し活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科受診も含め、ご家族支援のもと、柔軟に対応を実施している。必要時は福祉車両の手配を行い、支援に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GHでのイベント等には地域のボランティア町内会長、いきいきセンター職員等を招き介護スタッフ以外にも関わり繋がりを持つよう心がけている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望が 本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診支援を職員付添いのもと行なっている。また協力医の往診や、訪問看護を活用しながら、一人ひとりの意向や状態に応じた適切な医療を受けられるよう支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	端末での送りや伝達ノート、口頭、個人の医療ノート等で情報共有、異常の早期発見に努め必要な時は、他部署の看護師に協力を求めている		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、職員がお見舞いに行き病院の看護師から状態の報告を受けたりしており病院受診の際に良い関係が作れるように取り組んでいるしかしコロナ過になってからはなかなか難しい状況である。病院側も個人情報の取り扱いや感染対策にて面会も難しく家族ですら面会が出来ない状態。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重要事項説明書」に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を明記し、本人や家族、主治医と相談・情報交換を行なっている。また訪問看護や往診医療等と連携を図りながら、支援出来る体制を整えている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会の開催・実践訓練の開催を行っている。地区の消防署による、普通救命講習など参加している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練と水害、夜間を想定した避難訓練を実施している。消防署立会いのもと、消火・非難・救出の指導も受けている。マニュアルも完備し、被災後まで想定した内容となっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個人の生活リズムを尊重し理解し対応している。また個人情報保護法を厳守して安心して過ごして頂けるように配慮している。タブレット、パソコンを使用して個々の情報確認を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人に合わせた日常生活を過ごして頂けるように声掛け、働きかけを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の希望に少しでも添える様に、生活リズム、レクなどの計画を作成し、支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個人に合わせた服装や本人の希望や好みを尊重している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員また利用者様同士で楽しく会話しながら準備したり、美味しく楽しく食事をして頂ける様に務めている。食事形態、個々の好みに対しても柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分チェックはタブレットよりいつでも確認でき把握に努めている。食事がバランスよく摂取できるように形態の工夫や提供時間の工夫など一人一人に合わせて支援している		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前後、口腔ケアを行い入居者様にあった用具を使用している。口腔衛生管理指導にて医師に助言や指導連携を取り口腔機能低下防止に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄リズムを把握し、さりげない声かけでトイレへお連れ、失敗ない様に見守りや声掛けを行っている。本人様がスムーズに排泄できる方法などを職員で話し合っている。夜間も廊下天井の照明が点っており、安心してトイレに行くことができる。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェックシートにて水分量、食事量等を把握し日中は日々の運動に腸活運動等取り入れたり、排便コントロールの把握に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴準備は毎日行っており、個人の体調や気分に合わせて、個別に入浴しやすい環境を提供している。個浴での対応が難しい場合事業所内の浴室も利用している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせて、離床や臥床を支援している。また、昼夜逆転や不眠を解消する為、日中は活動的に過ごして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情を管理し把握している。不明な点などは、かかりつけ薬局の薬剤師に相談確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や能力に合わせた、役割やお手伝いを提供し、達成感を感じて頂けるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた、ドライブレクやイベントを企画している。特に、家族会や夏祭りは、地域の方々との交流を入居者様ご家族様も楽しみにされている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望や力に合わせて、近くのコンビニやスーパーに買い物をして頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が難しい時期など、手紙や電話など常に連絡が出来るように支援している。又、電話や手紙等が難しい入居者様へは、代筆や代弁にてお知らせしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、色彩を見やすい色合いにし、落ち着いて過ごせる様に務めている。居間からは、中庭が一望でき四季折々の変化を楽しむことが出来、開放感ある暮らしを提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、入居者様がくつろげるようにソファやテレビ等を設置している。又、照明等も、落ち着いた色合いにしている。食事時は、音楽をかけ食事に集中できる環境づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人様やご家族様の希望や要望にて、ご家族の写真や思い出の品など飾り、家具等も思い思いに持ち込んで頂き、居心地の良い空間で過ごして頂けるように支援している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人に合わせた居室内の配置、安全にも工夫している。出来る事、わかる事、したい事を活かして自立した生活が送れる様に細かな変更も行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		